

〔研究報告〕

## 第2子妊娠中から産後1カ月の母親から見た第1子の様子と 2人の同時育児に対する意識の変化

磯山あけみ<sup>1)</sup>

### 要 旨

本研究の目的は、第2子を迎える母親の役割適応を促す支援検討のために、第2子妊娠中から産後1カ月の母親から見た第1子の様子と2人の同時育児に対する意識の変化を明らかにすることである。第2子妊娠中の母親に対し妊娠中・産後1週・1カ月の3回、縦断的に質問紙調査を行った。

結果、54名の有効回答が得られた。

母親から見た第1子の様子は、「第1子は赤ちゃんのことをよく話す」( $p = 0.000$ )、「第1子は第2子をいたわる行動をする」( $p = 0.000$ )、「第1子がきょうだいを受け入れる準備が整いつつある」( $p = 0.048$ )において、妊娠中より産後1週、産後1カ月が有意に高かった。

母親の2人の同時育児に対する意識は、妊娠中よりも産後1週から1カ月と経過することにより《2人の同時育児の肯定感》( $p = 0.001$ )が有意に高まる一方で、《2人の同時育児の負担感》( $p = 0.000$ )も高まった。

母親から見て第1子がきょうだいを受け入れる準備が整いつつあると感じるのは、妊娠中や産後早期ではなく、産後1カ月を経過してからであった。母親は妊娠から産後1カ月の時間を経て第1子の成長を感じており、第1子と誕生した第2子の2人を同時に育てていくことに対し肯定的に受け止めている一方で、負担感を抱いていることが示唆された。

キーワード：第2子妊娠、経産婦、第1子、育児意識、縦断研究

### 1. 緒 言

第2子が誕生する家族にとって新たな子どもの誕生は、第1子と父親、母親の3人で形成されてきた家族機能が発達を遂げるライフイベントである(Rubin, 1997)。第2子が誕生する家族の特徴は、妻と夫、子どもの3人家族から4人家族へと量的に家族形態が変化することである。家族形態の変化に伴い、家族成員の役割も変化する。第2子を迎える母親の役割課題は、2人の子どもの親となることを受け入れることであり、第1子と第2子の2人の子どもの育児に適応していくことである。父親にとっての役割課題は、2人の子どもの父親として適応して

いくことであり、第2子を迎え入れる母親を支えることである。第1子にとっての役割課題は、新しく生まれてくる兄のきょうだいとして、兄弟関係を形成し、兄に対し愛着を持ち、大切な家族の一員であることを認識していくことであり、両親の愛情を分かち合うことである。このように、第2子の妊娠出産により家族機能が急激に変化する時期に、母親は兄姉になる第1子をどのように捉え、2人の子どもの母親になることをどのように捉えているのだろうか。

第2子妊娠・出産をした母親とその家族に関する先行研究は、第2子妊娠中の母親の特徴(磯山, 2010; 磯山, 2014)、第2子出産後の母親の特徴(宇野, 浅野, 大島他, 2010; 田尻, 2003; 須藤, 片岡, 2007)

1) 上智大学

が明らかになっている。新たな家族員を迎えるにあたって母親は、第2子妊娠期から育児期までのどの時期においても、「生活の中心は第1子」においている（山崎，2003；礒山，2010）。第1子については、兄弟として自立しようという行動が見られる一方、母親に甘えたいという反応や行動が見られたり、退行現象が現れたりする（須藤他，2007）。そのため母親は「第1子に対する育児への戸惑い」とともに、「第1子と第2子の育児を同時に行うことへの戸惑い」を感じている。同時に、「第1子の育児経験を生かした、第2子の育児に関わることへのゆとり」を感じていることが明らかになっている。これらは、母親の第2子妊娠中や2人の育児中など横断的な調査の結果であり、母親の第2子妊娠中から産後1カ月にかけて縦断的に2人の子供の親になることに関する意識を調査した報告は見当たらない。

よって本研究では、第2子を迎え入れる母親の役割適応を促す支援を検討するために、第2子妊娠中・出産後1週および産後1カ月の母親から見た第1子の様子と2人の同時育児に対する意識の変化を明らかにすることである。第2子妊娠中から出産後1カ月の母親から見た第1子の様子と2人の同時育児に対する意識の変化を明らかにすることは、初産婦と異なる経産婦の複数の児を持つ母親の適応過程を支える支援を検討するための示唆を得ることになる。

### 1. 用語の定義

2人の同時育児に対する意識とは、第1子と第2子の2人の育児を同時に担う母親の育児に対する捉え方や態度とした。

## II. 方法

### 1. 調査期間および調査対象

2016年2月から6月に地方都市の医療施設で妊婦健康診査を受けており、研究の同意が得られた第2子妊娠中の母親を対象とした。選定基準は順調な妊娠経過を辿っており、第1子を持つ妊娠中期以降の

第2子妊娠中の母親とした。

### 2. 調査方法

依頼した医療施設の施設長および助産師に対し研究の趣旨を説明し、質問紙の配布を依頼した。第1回目の妊娠中の配布は、妊婦健康診査の待合時に、助産師が本研究の依頼文と妊娠中の質問紙を配布し、同意の得られた母親には質問紙への回答の協力を得た。回収は近隣に設置した回収箱への投函とした。第2回目の産後1週は退院診察の待ち時間、第3回目の産後1カ月は、外来での1カ月健診の待ち時間に、助産師から直接手渡しでの配布を行い、近隣に設置した回収箱への投函とした。

### 3. 調査内容

#### 1) 対象者の属性

対象者の属性は、第2子出産時年齢、第1子の年齢および性別、実父母義父母と同居の有無、母親の就業の有無、第1子託児の有無を尋ねた。

#### 2) 母親から見た第1子の様子と2人の同時育児に対する意識の変化

本研究の目的は、第2子妊娠中から産後1カ月の母親から見た第1子の様子と、2人の同時育児に対する意識の変化について明らかにすることである。そのため、初産婦と異なる経産婦の特徴を踏まえて調査する必要がある。初産婦と異なるのは第1子を育てながらの妊娠・出産・育児を行うということである。母親から見た第1子の様子と2人の同時育児に対する意識を測定するための尺度は存在していない。そこで、本研究では先行研究（礒山，2010；礒山，2016）をもとに独自に作成した。その後、質問項目の内容としてその要素を網羅しているかについて、助産学分野の専門家と構成概念妥当性を検討し、第2子妊娠中の母親10名にプレテストを行い、修正を加え作成した。そう思わないから、そう思う、の5件法で尋ねた。

#### ①母親から見た第1子の様子

母親から見た第1子の様子は「第1子は第2子に対して興味を示す」「第1子は要求に応える」「第1子はあかちゃんのことをよく話す」「第1子は

第2子をいたわる行動をする」など、母親から第1子を見たときの第2子に対する態度や第1の様子を示す9項目とした。

#### ②2人の同時育児に対する意識

2人の同時育児に対する意識の項目は前向きに捉える項目と後ろ向きに捉える項目で構成された。前向きに捉える項目は8項目であり、「第1子のあかちゃんがえりを受け止めることができる」「2人の同時育児のイメージ化ができていく」など育児に関する肯定感についての項目のため、「2人の同時育児の肯定感」と命名した。後ろ向きに捉える項目は13項目であり、「気持ちを休めることができない」「身体を休めることができない」など育児に関する負担感についての項目のため「2人の同時育児の負担感」と命名した。

#### 4. 分析方法

対象者の属性と第2子妊娠中・出産後1週および1カ月の母親が捉えた第1子様子と、第2子誕生後の2人の同時育児に対する意識について記述統計を行い、3群の比較には一元配置分散分析、ノンパラメトリックのFriedman検定、下位検定（群間の比較）はBonferroni法を用いた。解析には統計パッケージSPSS Statistics 21.0Jを用い、有意水準は5%とした。

#### 5. 倫理的配慮

協力施設に対し、調査の趣旨・方法、倫理的配慮を説明して了解を得た。対象者には妊婦健康診査に来院した際に口頭および文書で説明した。その際、研究の趣旨と方法、研究協力は自由意思であること、研究協力を途中で中断しても不利益のないことを保障し、得られたデータを本研究以外に使用しないこと、研究結果を公表する際には匿名性を厳守することを説明した。回答された質問紙の提出をもって参加の同意が得られたものとした。なお、本研究は上智大学の倫理審査委員会において承認された(2016-18)。

表1. 対象者の属性 (n = 54)

項目		n	%
第2子出産年齢	30歳未満	14	25.9
	30歳以上35歳未満	26	48.1
	35歳以上40歳未満	14	25.9
第2子出産時第1子年齢		3.2歳 ± 2.08	
第1子性別	男児	26	48.1
	女児	28	51.9
同居の有無	同居有	12	22.2
	同居なし	42	77.8
就業の有無	就業している	24	44.4
	専業主婦	30	55.6
託児の有無	あり	30	55.6
	なし	24	44.4

### III. 結果

#### 1. 対象の属性

配布した60ケースのうち、妊娠中・産後1週および1カ月の計3回の有効回答を得たケースは54名（有効回答率90.0%）であった。母親の属性は表1に示す。第2子出産年齢は30歳未満14名（25.9%）、30歳以上35歳未満26名（48.1%）、35歳以上40歳未満14名（25.9%）、第2子出産時第1子平均年齢は3.2歳 ± 2.08、第1子性別は男児26名（48.1%）女児28名（51.9%）、同居有12名（22.2%）同居なし42名（77.8%）、就業している24名（44.4%）、専業主婦30名（55.6%）、託児あり30名（55.6%）なし24名（44.4%）であった。

#### 2. 母親から見た第1子様子と2人の同時育児に対する意識の変化

##### 1) 母親から見た第1子様子の変化

母親から見た第1子様子の変化を表2に示す。9項目の $\alpha$ 係数は0.753であった。3群に有意差を認めた項目は、「第1子は第2子に対して興味を示す」(p=0.000)、「第1子はあかちゃんのことをよく話す」(p=0.000)「第1子は第2子をいたわる行動をする」(p=0.000)「第1子は第2子を抱っこする抱っこしたいという」(p=0.000)「第1子はくっついてがる」(p=0.019)、「きょうだいを受け入れる準備が整いつつある」(p=0.000)、「第1子はききわけの

表2. 母親から見た第1子の様子の変化

項目	n = 54						F 値	群間比較
	妊娠中		産後1週		産後1カ月			
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
母親から見た第1子の様子 $\alpha = 0.753$								
第1子は第2子に対して興味を示す	4.13	1.12	4.39	0.92	4.80	0.53	19.96 ***	妊娠中<産後1カ月 **
第1子は要求に応える	4.17	0.82	3.94	0.76	3.96	0.89	1.898	
第1子はあかちゃんのことをよく話す	3.54	1.31	3.83	1.18	4.41	0.81	20.389 ***	妊娠中<産後1カ月 **
第1子は第2子をいたわる行動をする	3.50	1.31	3.98	1.05	4.46	0.79	29.628 ***	産後1週<産後1カ月 * 妊娠中<産後1カ月 ***
第1子は第2子を抱っこする抱っこしたいという	3.30	1.56	3.78	1.55	4.54	0.79	23.574 ***	産後1週<産後1カ月 ***
第1子はききわけのない振る舞いをする	3.11	1.14	2.98	1.24	3.56	1.22	11.177 **	妊娠中<産後1カ月 *
きょうだいを受け入れる準備が整いつつある	3.30	1.16	3.76	1.01	4.19	0.87	33.856 ***	産後1週<産後1カ月 ***
第1子はくっつきたがる	4.43	0.84	3.98	1.04	4.37	0.76	7.948 *	
第1子は精神的に不安定である	2.20	1.02	2.59	1.07	2.87	1.23	12.715 ***	妊娠中<産後1カ月 *

\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001, Friedman検定

ない振る舞いをする」(p=0.004), 「第1子は精神的に不安定である」(p=0.002)であった。下位検定の結果, 妊娠中と産後1カ月の群間に差を認め, 妊娠中より産後1カ月のほうが有意に高かった項目は, 「第1子は第2子に対して興味を示す」(p=0.009), 「第1子はあかちゃんのことをよく話す」(p=0.001), 「第1子は第2子をいたわる行動をする」(p=0.000) 「第1子は第2子を抱っこする抱っこしたいという」(p=0.000), 第1子はきょうだいを受け入れる準備が整いつつある」(p=0.000), 「第1子は精神的に不安定である」(p=0.014)であった。産後1週より産後1カ月の群間に差を認め, 産後1週より産後1カ月のほうが有意に高かった項目は, 「第1子はあかちゃんのことをよく話す」(p=0.032), 「第1子は第2子をいたわる行動をする」(p=0.042), 「第1子はきょうだいを受け入れる準備が整いつつある」(p=0.048), 「第1子はききわけのない振る舞いをする」(p=0.024)であった。

2) 2人の同時育児に対する意識の変化

2人の同時育児に対する意識の変化を表3に示す。8項目で構成された《2人の同時育児の肯定感》の $\alpha$ 係数は0.776であり, 13項目で構成された《2人の同時育児の負担感》の $\alpha$ 係数は0.754であった。

3群に有意差を認めた項目は《2人の同時育児の肯

定感》(p=0.001), 「2人目は多少のことであっても大丈夫だと思う」(p=0.001), 「第2子妊娠誕生で第1子の成長を感じた」(p=0.000), 「同時に2人を育児するイメージができてきている」(p=0.000), 《2人の同時育児の負担感》(p=0.000), 「第1子を叱ってしまう」(p=0.000), 「第1子と遊ぶ時間が減った」(p=0.000)であった。下位検定の結果, 妊娠中と産後1週間の群間に差を認め, 妊娠中より産後1週間のほうが有意に高かった項目は「第2子妊娠誕生で第1子の成長を感じた」(p=0.001), 「同時に2人を育児するイメージができてきている」(p=0.001), 《2人の同時育児の負担感》(p=0.000), 「第1子と遊ぶ時間が減った」(p=0.002)であった。妊娠中と産後1カ月の群間に差を認め, 産後1カ月のほうが有意に高かった有意に高かった項目は《2人の同時育児の肯定感》(p=0.002), 「2人目は多少のことであっても大丈夫だと思う」(p=0.012), 「第2子妊娠誕生で第1子の成長を感じた」(p=0.002), 「同時に2人を育児するイメージができてきている」(p=0.018), 《2人の同時育児の負担感》(p=0.004), 「第1子を叱ってしまう」(p=0.014), 「第1子と遊ぶ時間が減った」(p=0.000)であった。産後1週と産後1カ月の群間に差を認め, 産後1カ月のほうが有意に高かった項目は, 「第1子を叱ってしまう」(p=0.000)であった。

表3. 2人同時育児に対する意識の変化

項目	n = 54						F値	群間比較
	妊娠中		産後1週		産後1カ月			
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
2人の同時育児の肯定感 $\alpha = 0.776$	34.70	4.62	36.17	4.33	36.96	4.22	13.619 **	妊娠中<産後1カ月 **
あかちゃんがえりは時間と共になくなる	4.37	0.73	4.33	0.93	4.65	0.62	0.137	
第1子の育児経験を生かして楽しみたい	4.52	0.69	4.57	0.57	4.43	0.69	1.826	
育児は楽しい	4.20	0.76	4.15	0.66	4.30	0.66	3.236	
2人目は多少のことがあっても大丈夫だと思う	3.67	1.03	4.06	0.79	4.22	0.74	14.516 **	妊娠中<産後1カ月 *
第2子妊娠誕生で第1子の成長を感じた	3.70	1.09	4.43	0.81	4.46	0.77	27.887 ***	妊娠中<産後1週 ** 妊娠中<産後1カ月 **
第1子を褒めることが多くなった	3.85	0.86	3.33	0.97	3.56	0.79	4.635	
第1子とコミュニケーションが増えた	3.76	0.89	3.39	1.32	4.02	0.81	2.078	
同時に2人を育児するイメージができていく	2.94	0.81	3.13	0.89	3.06	1.11	26.274 ***	妊娠中<産後1カ月 ** 産後1週<産後1カ月 *
あかちゃんがえりを受け止めることができる	3.69	0.77	3.80	0.79	3.80	0.79	1.032	
2人の同時育児の負担感 $\alpha = 0.754$	39.48	6.51	40.43	6.89	42.11	7.03	20.208 ***	妊娠中<産後1週 ** 妊娠中<産後1カ月 ***
第2子出産で入院時第1子が心配だった	4.33	0.89	4.46	0.91	4.37	0.98	2.022	
第2子より第1子が気になる	3.76	0.87	3.80	0.96	3.80	0.86	0.045	
第1子のあかちゃんがえりが心配である	3.46	1.18	3.35	1.33	3.22	1.28	3.025	
第2子妊娠誕生で行動が制限されるようになった	3.65	1.12	3.87	0.91	4.06	0.90	5.061	
ひとりにしてほしい時間がある	3.78	1.08	4.09	0.83	3.35	1.26	7.916 *	
身体を休めることができない	3.13	1.15	3.61	0.76	3.30	1.09	2.15	
第1子を叱ってしまう	3.41	0.92	3.24	0.97	3.91	0.92	22.646 ***	妊娠中<産後1カ月 * 産後1週<産後1カ月 ***
気持ちを休めることができない	2.67	1.01	2.76	1.06	2.91	1.09	4.07	
忙しいからあとでねと拒否しがち	3.37	1.01	3.44	0.90	3.74	0.83	7.412 *	
第1子と遊ぶ時間が減った	2.80	1.07	3.59	0.94	4.00	0.82	44.35 ***	妊娠中<産後1週 ** 妊娠中<産後1カ月 ***
良い母親にならなくてとは焦る	2.98	1.22	3.04	1.15	3.54	0.93	0.646	
第1子の関わりに戸惑いがある	2.15	0.96	2.15	1.07	2.41	1.04	7.344 *	

\* $p < 0.05$ , \*\* $p < 0.01$ , \*\*\*  $p < 0.001$ , Friedman検定

#### IV. 考察

##### 1. 母親から見た第1子の様子の変化

母親から見た第1子の様子は、妊娠中から産後にかけて変化していた。特に妊娠中から産後1カ月を経過することで第1子に対して前向きに捉えられていた。中でも、第1子は第2子の興味を示したり、赤ちゃんのことをよく話すようになったりと第2子をいたわる行動が見られるのは、妊娠中に比べ産後1週間と高まり、さらに産後1カ月でそれらの得点が高まった。本研究の結果より、母親から見て第1子がきょうだいを受け入れる準備が整いつつあると感じるのは妊娠中や産後早期ではなく、産後

1カ月の時間を要するということである。このことは家族の役割適応の支援を検討するうえで認識しておく必要がある。

母親は、妊娠中に比べて産後1週、産後1カ月を経過するごとに第1子の精神的な不安定さを感じていた。第1子の環境は、第2子の誕生に伴う母親との分離や家族成員の増員に伴い急激に変化すると同時に自己の役割も変化する。比較的低年齢の段階で弟や妹の誕生を経験した子どもは、母親をいたわるという前向きな反応を示すと同時に、不安定な行動も示しやすいと述べられている (Sawicki, 1997; Fortier, Carson, Will, et al, 1991; 小島, 入澤, 脇田他, 2001)。本研究においても第2子誕生に伴う

第1子の精神的な不安定さを感じる結果であった。母親は兄姉になる第1子へのかかわりに対して困難さを感じており、第1子の育児とは異なる戸惑いを伴う(礒山, 2010; Sawicki, 1997; Smith, 2013; 宇野他, 2010)。新たに第2子を迎え入れる母親にとっては、2人の子どもの親となることを受け入れ、第1子と第2子の2人の子どもの育児に適応していくことが役割課題であるため、母親に対し、いかに家族役割への適応を促す支援を行うかが重要であるといえる。

一方、第1子はききわけのない振る舞いをする、第1子はくっつきたがるの項目は、妊娠中より産後1週では低下し産後1カ月で上昇した。産後1週は母親がまだ入院中であるため、第1子の育児にほとんど関与していないためであろうと推察できる。

## 2. 2人の同時育児に対する意識の変化

母親の2人の同時育児に対する意識では、産後1カ月で《2人の同時育児の肯定感》が上昇し、「2人目は多少のことがあっても大丈夫」と感じていた。経産婦の強みは、第1子の育児経験がある事である。母親は、第1子の育児経験を通して母親自身が成長したことにより、ゆとりを持って2人分の育児を楽しんでいたことが報告されている(宇野他, 2010)。また、妊娠中に比べ産後1週および産後1カ月と時間の経過と共に、第2子誕生で第1子の成長を感じ、同時に2人の育児をするイメージが高まっていた。母親は第2子が誕生するまで予想しなかった第1子の行動に対し、成長発達を喜ぶといった前向きな一面があったことも明らかになっている(宇野他, 2010)。第1子自身のポジティブな反応として、自分でするようになる、第2子の存在を人に知らせる、人形をかわいがるしぐさをする、我慢するなど成長的行動が見られていた(Sawicki, 1997; Fortier et al, 1991; 保田, 2004)。本研究においても2人の同時育児は戸惑いや困難のみならず、第1子の育児経験があるからこそそのゆとりや、第1子の成長を喜ぶといった肯定的側面を備えていることが示唆された。

一方、産後1週において《2人の同時育児の負担感》が上昇していた。産後1週という産褥早期は、第1子の育児経験がある経産婦であっても、第1子と誕生した第2子の2人の育児を同時に進行していくことに負担感を抱いていることが明らかになった。育児経験のある経産婦であっても、産後早期には2人の同時育児に対して負担感を抱いていることを理解して支援していく必要がある。

## 3. 第2子妊娠中から産後1カ月の2人の同時育児に対する意識の変化の特徴と支援

第2子妊娠中から産後1カ月の2人の同時育児に対する意識の変化の特徴として、第1子にとって母親の妊娠中には目に見えない弟妹の存在を、出産後は目に見える存在として捉えることになる。そのため、母親から見て第1子が第2子に対して興味を示したり、第2子をいたわる行動をしたりする様子が見られるのは、妊娠中に比べ、出産後に得点が高まることは理解できる。第1子の精神的な不安定さや聞き分けのない振る舞いをするなど捉えるのも妊娠中より、産後1週、産後1カ月にかけてであった。経産婦の特徴として妊娠中から産後1週を経て産後1カ月と時期を経ることで母親として《2人の同時育児の肯定感》が高まる一方で《2人の同時育児の負担感》も高まる状態であることが示された。このことは、母親にとって「生活の中心は第1子」であった家族の形態が第2子誕生により変化したことで、物理的に第2子の育児中心に変化し、第1子に対し今まで通りに関わるのが難しい状況にあることが予測される。よって、第1子の成長を喜ぶとともに、第1子の健気さや切なさを感じていることが示された。今回調査した第1子の年齢の平均は3.2歳である。第1子が2歳6カ月～6歳未満の家族の発達課題として、子どもが兄姉としての役割を取得できるように育てること、2人の子どものニーズを満たすことを調整することである(Friedman, 1993)。以上より、第1子が兄姉としての役割を獲得する時期に、順調に役割を受け入れ適応できるような支援が必要である。

本研究の結果は、第2子の妊娠中から産後1週および産後1カ月におよぶ縦断研究でのデータであり、母親から見た第1子の様子の変化と2人の同時育児に対する意識の変化を明らかにできた点で意義がある。しかしながら、妊娠期のデータが中期以降と幅があることにより意識に違いがある可能性があること、属性が母親から見た第1子の様子や2人の同時育児に対する意識の変化に影響している可能性もある。今後は属性との関連を調査していくことが課題である。

## V. 結 論

母親から見て第1子がきょうだいを受け入れる準備が整いつつあると感じるのは妊娠中や産後早期ではなく、産後1カ月であった。産後1週から1カ月と経過することにより《2人の同時育児の肯定感》《2人の同時育児の負担感》が上昇した。母親は妊娠から産後1カ月の時間を経て第1子の成長を感じており、第1子と誕生した第2子の2人を同時に育てていくことに対し、肯定的に受け止めている一方で、負担感を抱いていることが示唆された。

## 謝 辞

本研究にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。  
本論文内容に関する利益相反事項はない。

〔受付 '17.04.06〕  
〔採用 '17.09.26〕

## 文 献

- Fortier, J. C., Carson, V. B., Will, S., et al: Adjustment to a newborn: Sibling preparation makes a difference, *Journal of Obstetric, Gynecologic & Neonatal Nursing*, 20(1): 73-39, 1991
- Friedman, M. M., 野嶋佐由美監訳: 家族看護学—理論とアセスメント, 111-127, へるす出版, 東京, 1993
- 磯山あけみ: 第2子妊娠中の女性の子育てに対する主観的体験, *日本母性看護学会誌*, 10(1): 17-23, 2010
- 磯山あけみ: 第2子妊娠中の母親の育児意識および特性との関連, *母性衛生*, 55(2): 434-443, 2014
- 磯山あけみ: 第2子を迎え入れる母親に対する準備教育プログラムの開発と評価, *日本助産学会誌*, 30(1): 68-77, 2016
- 小島康生, 入澤みち子, 脇田満里子: 第2子誕生から1カ月目までの母親 第1子関係と第1子の行動特徴, *母性衛生*, 42(1): 212-221, 2001
- Rubin, R. 著/新道幸恵, 後藤桂子訳: 母性論—母性の主観的体験—, 70-74, 医学書院, 東京, 1997
- Sawicki, J. A.: Sibling rivalry and the new baby. Anticipatory guidance and management strategies, *Pediatric Nursing*, 23(3): 298-302, 1997
- Smith, V. C.: preparing a child for the birth of a sibling, *International Journal of Childbirth Education*, 28(2): 20-24, 2013
- 須藤宏恵, 片岡弥恵子: 第2子妊娠中から産後にかけての母親の第1子に対する気持ちとかわりの変化—新しい家族を迎えるためのクラス参加前後に焦点をあてて—, *聖路加看護学会誌*, 11(1): 19-27, 2007
- 田尻后子: 第2子を出産した産後1カ月の母親の体験 第1子の体験, *日本母性看護学会誌*, 3(1): 27-35, 2003
- 宇野晴美, 浅野郁代, 大島多恵他: 第2子出生に伴う第1子の反応と母親の感情, *茨城県母性衛生学会誌*, 28: 25-30, 2010
- 山崎あけみ: 3歳になる第1子を気遣いながら4人家族を形成するプロセス, *日本助産学会誌*, 17(1): 35-46, 2003
- 保田ひとみ: 第2子誕生後1カ月時における母親のとらえた第1子の反応, *日本助産学会誌*, 18(2): 9-20, 2004

## Change in Consciousness in Two-children Concurrent-care Mothers during Secundigravida to One Month Postpartum

Akemi Isoyama<sup>1)</sup>

1) Sophia University

**Key words:** Second pregnancy, Multipara, Firstborn, Infant-care consciousness, Longitudinal study

This study aims to clarify change in consciousness in two-children concurrent-care mothers during secundigravida through one month after birth; this was done to investigate support for secundigravida mothers in adapting to their roles and responsibilities. A longitudinal questionnaire survey was performed for the secundigravida women during pregnancy, and at one week and one month postpartum.

Valid responses were received from 54 persons. Significantly higher scores were obtained from the mothers for one week and one month postpartum than during pregnancy with regards to their first child for the questions, "My first child speaks often about the baby" ( $p=0.000$ ), "My first child shows caring behavior towards my second child" ( $p=0.000$ ), and "My first child is making preparations to accept her sibling" ( $p=0.048$ ). While the consciousness regarding the concurrent care of two children increased for these mothers from one week to one month postpartum in "positive feelings about concurrent childcare of two children" ( $p=0.001$ ), there was also an increase over the same period in "negative feelings about simultaneous childcare of two children" ( $p=0.000$ ).

From the mothers' perspective, it was not during pregnancy or soon after childbirth that they felt that their firstborn was making preparations to accept the second child, but rather one month postpartum. After one month had passed from the end of pregnancy (the postpartum day), these mothers were conscious about the mental development of their firstborn, and while feeling positive about raising two children concurrently, they also felt negatively regarding this task.